平成 25 年度･26 年度

長崎県立大学COC事業評価報告書【全体評価】

1. 事業実施計画

○平成 25 年度

初年度は、学内の実施体制を整えるとともに、また、地域との協議の場である「長崎のしまに学ぶ連絡会議」を設置する。また、地域とは、今回の取組の１つであるサテライトキャンパスに関して、設置する場所や施設や設備の規模等について協議を行った上で決定する。また、諸課題解決に向けた具体的な取組内容を地域と協議を行う。

また、「しま」や地域での学びを支援するｅラーニングシステムについて、教育開発センターの専任教員を中心として構想を検討するとともに、グローカル人材育成に向けたカリキュラムや学部学科再編の内容について検討を開始する。

○平成 26 年度

実施２年目であり、25 年度に地域と協議を行い決定した事項を適宜実施し、諸課題の解決に向けた各種取組を実施していく。特にサテライトキャンパスに関しては、建物の賃貸借契約を締結するとともに、施設の整備を行い、年度末には地域の方が利用できる状態にして、地域と大学の交流を開始する。

この他にも大学発の講座の開講の実施や健康講座を具体的に開催する。

教育に関しては、グローカル人材の育成のためのカリキュラム及び学部学科再編に向けた検討を継続して行うとともに、地域を志向する科目のうち、検討を進めてきた「しま」体験教育プログラムについては 26 年度より全学的に実施する。

2. 推進本部自己評価

平成 25 年度及び 26 年度の事業実施計画と事業の実績及び成果を総合的に鑑みて、２か年の目標を達成することができたか。

評点：　Ⅲ　年度計画を順調に実施している

○判断理由

事業の実績

・地域の課題を学生が抽出し解決策を考える「しま」体験教育プログラムを、平成 27 年度からの本格実施を見据え試行的に実施した。学生は事前の講義形式の授業でしまのことを学び課題を考えたうえで実際にしまのフィールドワークを行い、課題解決策をまとめた。フィールドワークの成果は地域住民へ向けて発表し、地域の方と意見交換も実施した。このことにより地域との関

係を深め今後の課題の抽出や解決方法、学生の活動への理解等についても双方の理解を進めることができた。
・地域の生涯学習の促進や健康増進への取り組みのため公開講座や健康講座、女性のキャリア支援講座等を開催した。
・グローカル人材育成や地域を志向した学部学科改組に向け新学部学科のカリキュラムや入試等について具体的に検討を行った。

事業の成果
・「しま」体験教育プログラムを試行的に実施することにより学生が地域課題を考えフィールドワークを実施し、学内外に発表することにより学生の課題探究能力や問題解決力、発信力等を涵養することができた。
・学生のフィールドワークの成果を地域の方々へ発表し意見交換を行うことで研究成果の地域への還元につながり、大学や学生にとっても今後の研究・発表のテーマや方向性を確認することができた。
・学生のアクティブラーニングや PBL 形式の授業をサポートするための e ラーニングシステムの構築や教室の改修を進めた。これにより、効率的な授業運営や学生のユーザビリティに資することができる。

3. 評価委員会評価
平成 25 年度及び 26 年度の事業実施計画と事業の実績及び成果を総合的に鑑みて、２か年の目標を達成することができているか。

評点：　Ⅲ　年度計画を順調に実施している

〇判断理由
・「１．教育」、「２．研究」、「３．社会貢献」の各項目の評価結果は「Ⅲ」であった。
・実施計画の項目別の評価結果については、「Ⅳ」が６項目、「Ⅱ」が１項目、残りの２４項目は「Ⅲ」であった。
・特に離島でのフィールドワークについては、多くの学生が参加し報告会における発表に対しては、地元からも一定の高い評価を得ている。
・１年目２年目の活動については、順調に実施されており、様々な課題は残されているものの、全体評価としては自己評価通り「Ⅲ」が適当である。

〇意　見
・活動の評価だけでなく、目標への貢献度や効率性などの成果の評価も必要である。
・一方、大学の教育の成果は短期的にでるものではなく、成果を測ることが難しい側面もあり、事業の対象や具体的な目標など、大学においても評価方法について次回の評価に向けて議論してもらいたい。